

## 第3回総合計画策定審議会 第2部会での論点整理

### 【第4章第1節 豊かな人生を育む生涯学習の推進】

- ・生涯学習は「個人の学び」から、「子どもに伝える」、「地域活性化に生かす」方向になっている。そういったことを現状と課題、基本方針に盛り込んでどうか。  
⇒ 方向性は理解している。担当課と協議する。
- ・ 現状と課題1で「町民が」とあるのは、「人々が」の方がいいのでは。  
⇒ 全体でこの表現を使っているの、理解いただきたい。
- ・ 基本方針の2つ目「百年記念ホールや町民会館、忠類コミュニティセンターなど」とあるが、「札内コミュニティプラザ」は入らないか。教育施設の列挙であれば、そぐわない部分があるので「などの社会教育施設を」や「などの公民館類似施設を」とした方が分かりやすい。  
⇒ 紛らわしい部分があるので、表現については持ち帰り検討したい。(※施策の方向性5(1)との整合性も図る)

### 【第4章第2節 「生きる力」を育む学校教育の推進】

- ・ 施策の方向性1(4)では「教職員の研修・活動を促進」で、施策の方向性2(8)では「教職員の研修を促進」となっており、「活動」が不明であるので表現を揃えてどうか。  
⇒ 持ち帰り検討したい。
- ・ 学習指導要領の改訂がなされ、「大学入学共通テスト」の導入、また、英語教育が本格的にスタートするなど加速度的に変革の時期にあり、そういったことを盛込んでいってどうか。学校運営協議会の設置が努力義務になり、施策の方向性2(3)に記載はあるが、「学校支援地域本部事業」が「地域学校協働本部事業」に切り替わることもあり、「地域で子ども達の成長を支える」、「学校と地域が手を結んで進む」といったことを盛込んでいただきたい。  
⇒ 変革の時期にあることはそのとおりであると考えて。表現については持ち帰りたい。施策の方向性2(3)にコミュニティスクールに触れているが、表現を改めたい。
- ・ 教育の日において、「子どもを真ん中に置いた」とあるが、大人が上からの視点で行っている印象を受ける。「まくべつ教育の日」を中心に、地域住民との連携・協力を深め、地域に開かれた学校教育を推進します」としてどうか。  
⇒ 「まくべつ教育の日」のモードがこのようになっているためであるが、持ち帰り検討したい。
- ・ 給食の地産地消に触れているがどのようにしているのか。常時実施しているのか。  
⇒ 取り組んでおり、幕別産30%、道内産30%合わせて60%程度地場産品を使っている。しかし、どうしても供給時期のばらつきがあること、また給食費のことから毎日必ず使用できている訳ではない。
- ・ 遺伝子組換え食品については、是非使わないでほしい。  
⇒ 必ず表記されており、使用していない。
- ・ 小中一貫教育とあるが、「小中連携や」も選択肢として入れてどうか。  
⇒ 小中連携については、これまでも取り組んでおり、今後10年の中でステップアップしたいと考えている。「連携」を入れることについて教育委員会に確認はする。
- ・ 学校施設の適正配置とある。札内南が極端に多く北小、白小が児童数減少している現状。今後どのように進んでいくと考えているのか。もう少し具体的な記載をしてもいいのでは。  
⇒ 難しく、かつ、デリケートでこれ以上の書き方は難しい。小規模校もあり、統廃合についてもこれまでもPTA等地域からの意見で行ってきた。
- ・ 幕別高校と江陵高校が統合される。このまま移行しても現幕別高校と同様にいつの間にか1学級という事態になってしまうのではないかと危惧する。道立高校であるかと思うが、「コミュニティスクール化して幕別町が関わる」ということを、また、「(小)中高接続」、北海道科学大学と協定を結んでおり「高大接続」といったことも考えていってどうか。町民の高校が無くなる不安を解消できるような表現を。  
⇒ 連携については「地域に開かれた魅力ある学校づくり」とあるが、「地域と高校が連携して」といった高校版のコミュニティスクールに向けたことを具体的に盛り込むよう検討したい。「高大接続」はすぐには無理だと思うが視野には入れていなければと認識している。
- ・ この節全体に関わることでもあるが、「社会に開かれた、学校を通じ社会地域を良くする、目標を共有する」といったことが言われている。そういった視点では施策の方向性4は町の計画なので「支援」なのかあるいは「連携」という表現なのか。イーブンの関係であるといった視点が必要であり、現状と課題に盛り込むことがよいのではないか。
- ・ 中札内分校は、普通科高校との同一校舎であり、「インクルーシブ教育」を特色としてきた。義務教育だけでなく、新幕別町の高校と中札内分校との連携も記載されている方が町としてもプラスではないか。  
⇒ 全道初の合同校舎校である。道立高校同士の連携を町の計画に盛り込むことは難しい部分があるが、方向性4(2)に触れられている部分もあるものの持ち帰り検討したい。

### 【第4章第3節 青少年の健全育成の推進】

- ・ 5期総では「ボランティア活動を体験する機会の充実を図り」となっていたが、「ボランティア活動を通じ」となっている。後退した印象も受けるが意図はあるか。  
⇒ 後退した訳ではない。どのような表現がいいか検討したい。

#### 【第4章第4節 芸術・文化活動の振興】

- ・ 「地元の芸術家や文化を愛する人」とあるが、地元出身というのも含まれるか。スポーツでは地元出身となっている。スポーツは強調されているが、文化は取り上げられることが少ない印象がある。  
⇒ 住んでいる方も、地元出身の方も含んでいるが、第6節スポーツと表現の整合性を図りたい。

#### 【第4章第5節 歴史的文化の保存・伝承】

- ・ 学芸員の配置がないが、今後必要になってくるのではないか。ボランティア任せでよいのか。  
⇒ 内部でも検討してきている。今後、施設の在り方も含め検討していくが、現状計画に盛り込むことは難しく、「人材の育成」に包含されていると思うが、教育委員会と協議する。
- ・ 「専門的知識を有する人材の育成」としてはどうか。  
⇒ 併せて検討する。

#### 【第4章第6節 健康づくりとスポーツ活動の振興】

- ・ スポセン、トレセンと二つあって、非常にどっちつかずの使いづらい施設となっている。一つ充実した施設ということも必要では。どのような方向性で考えているか。  
⇒ 公共施設等総合管理計画を策定しており、ほかの施設も含め全て更新すると89億円/年を要する。いかに長く使うかということを実施していかななくてはならない。また、町民の健康増進ということでは、各地域に必要で建設していたものと思われる。人口減少の時代において今後の検討課題。プロを招へいするというだけでなく、町民の運動施設という視点で建設している。
- ・ パークゴルフについて、振興について触れているが、町民でもルールを理解してない人や初心者もいる。町内での浸透や指導を受けるといった視点も入れてほしい。  
⇒ 町内については、一定程度浸透しており、国内の未普及地や観光振興への活用といった部分を進めていきたいということ。「一層の振興」という部分に含まれているということに理解いただきたい。
- ・ パークゴルフ大会等、サークルに所属してないとなかなか知り得ない。  
⇒ 広報やNPGAのHPあるいは募集記事といった部分で周知している。意見としてお伺いし、周知については今後も工夫したい。

## 第3回 幕別町総合計画策定審議会 第2部会 会議要旨

### 1 開会

#### ○ 帰山部会長挨拶

【議事に入る前に第2部会での意見等を踏まえた修正について資料1により西明副主幹から説明】

(第3章第8節 町民の安全・安心を守る災害対応の充実)

- ・ 基本計画24ページ「施策の方向性2 防災体制の充実(3)」において、「避難所」だけでなく「避難所」も加えた方がよいのではないか。(工藤委員からの意見)  
⇒ ご指摘のとおり修正する。
- ・ 基本計画25ページ「施策の方向性4 自主防災組織の育成(2)」において、地域防災連絡協議会の設置は「避難場所地域ごと」ではなく「避難所地域ごと」ではないか。また、末尾の表現を「努めます」から「図ります」に改めてはどうか。(工藤委員からの意見)  
⇒ ご指摘のとおり修正する。
- ・ 基本計画25ページ「施策の方向性4 自主防災組織の育成(2)」において、「地域防災連絡協議会」の名称を「地域連絡防災協議会」に改めてはどうか。(工藤委員からの意見)  
⇒ 現在の防災計画において、名称を「地域防災連絡協議会」としていることから、原案のとおりとし、総合計画の中間見直しの際に検討することとする。

(第3章第10節 消費者の権利尊重と自立支援)

- ・ 第5期総合計画以後、消費者基本法の改正や消費者教育の推進に関する法律が制定され、消費者意識を高めていくためにも、「消費者市民社会の形成」や「消費者教育の推進」について盛り込む必要があるのではないか。(杉山委員からの意見)  
⇒ ご指摘のとおり「現状と課題」の三つ目に追加する。また、その他ご指摘をいただいた文言修正等についても資料1のとおり修正する。

### 2 第6期幕別町総合計画基本計画(案)について

- ・ 事務局から、総合計画基本計画(案)第4章について一括説明後、節に区切って質疑応答。

【第4章第1節 豊かな人生を育む生涯学習の推進】(P29)

(岩谷委員)

- 基本計画(案)の「現状と課題」また「基本方針」において、個人の学びに関することが記載されているが、最近の生涯学習では、個人が学んだことを「地域の活性化に生かす」あるいは「次世代の子供たちに伝える」ということが求められているため、「現状と課題」に盛り込むとともに、それに対応した基本方針などに盛り込んだ方がよいのではないか。

(事務局)

- 方向性としては理解をしているため、こういった表現がよいかを担当課と協議する。

(國安委員)

- 現状と課題の1つ目について、生涯学習の定義を記載しているため、「町民が」とあるのは、「人々が」の方がよいのではないか。

(岩谷委員)

- 他の章や節にも「町民」よりも「人々」の方がよいと思う部分もすべて「町民」で統一されているため、整合性を図った方がよいと考える。

(事務局)

- 全体の表現を「町民」と統一しているため、ご理解いただきたい。

(大谷委員)

- 基本方針の2つ目に、生涯学習の拠点施設として百年記念ホールや町民会館、忠類コミュニティセンターを列挙しているが、「札内コミュニティプラザ」は入らないのか。

(事務局)

- 札内コミュニティプラザは教育施設としての位置付けではなく、主だった教育施設を列挙している。

(工藤委員)

- それであれば、百年記念ホールや町民会館、忠類コミュニティセンターなどの教育施設としてはどうか。

(事務局)

- 補足するが忠類コミュニティセンターも教育施設ではなく、表現を改める必要があるため、持ち帰り検討する。

(岩谷委員)

- 百年記念ホールやコミセンを「公民館類似施設」と表現することがあるので、一案としてはほしい。

(事務局)

- 承知した。

#### 【第4章第2節 「生きる力」を育む学校教育の推進】(P30～31)

(岩谷委員)

- 学習指導要領の改定が、来年から移行開始、平成32年度には小学校で全面実施、平成33年度には中学校で全面実施、平成34年度には高校で実施となる。もう一点、平成30年度で今の入試センター試験が終わって、大学入学共通テストが、平成32年度から始まって来る。道徳教育が始まって来るということで、いろいろと変わってくる時期である。コミュニティスクール設置努力義務化も決定している。学校運営委員会のことについて書いてあるが、コミュニティスクールについては、一貫教育と共に地域で子どもたちの成長を支える。今まで学校支援本部事業があったが、今度からは地域学校協働活動本部事業に変わって、内容も学校を地域が支援するというものをこれからは、学校と地域が手を結んで一緒に子どもを育てるという方向に変わってきている。そこはどこかの項目に入れていただきたいと思っている。

(事務局)

- これからの教育においては、社会に開かれた学校づくりを進めることが大きくクローズアップされている。学校は社会と共に作り上げていくという概念が、学習指導要領の改定だけでなく、教育の方向性としてそういう方向にあるということは承知しているところであり、どういう表現がいいかは、教育委員会と協議させていただきたい。

学校運営協議会と入っているが、コミュニティスクールを指している。本町においては学校運営協議会はすべての学校に設置されている。しかし、法が求める学校運営協議会になっていないことが課題となっており、教育委員会では小中一貫教育を検討していく中でいかにコミュニティスクールと連携して学校教育を進めていくかということが協議されている。この部分ではそういう意味で書いているが、もう少し分かりやすい表現にするよう教育委員会と協議したい。

(杉山委員)

- 幼児教育の充実(1)で、「満3歳児保育の充実を図る」という意味は、例えば2歳児なんだけど満3歳になったら入れるという理解でよいか。

(事務局)

- そのとおり。

(杉山委員)

- 「安全な給食を提供するため、食器や機材などの更新整備を進めます」とあるが、給食の食材に関して地元の食材を使ってほしい。使っているということであれば、それは常にすることなのか、例えば地産地消の日というようにするのか。

(事務局)

- 幕別産3割、道内産3割で合わせて6割ぐらい毎年使っている。北海道、幕別と地域柄年中供給できるものというのは少なく、芋ぐらいしかないというのが現実で、比率を上げることもなかなか難しい。食材は海外のものを買うと安いですが、それではやはり安全安心な給食につながらないという面があり、地場産を使っていきたい。また、給食費問題もある。小学校で234円、中学生284円、その中で食材費を収めなくてはならないという制約もある。本来は材料費は保護者から負担をいただくというのが原則で、法律上明記されている。しかし、町としては特別給食として、地場産品の活用に関しては、補助する形でやっている。

(杉山委員)

- 遺伝子組換えの関係は、遺伝子組換え食品は、本当のところは分かっていないという話を聞いたが、次の世代の子どもたちの身体を作る食、道内のものをずっと使うことができないのは承知しているが、安全ではないものを給食には使わないでほしい。

(事務局)

- 給食については、特に安心安全な給食を届けるため、遺伝子組換えの作物・それを原料にしているものもあるが、必ず標記されており、使用しないということで徹底している。

(岩谷委員)

- 4番目の高等学校教育で平成31年幕別高校と江陵高校が統合して新生幕別高校ができる。道立高等学校ですから幕別町としてはかかわりがなくなってしまう。そうすると今の幕別高校と同じことになり、一学年一クラスの維持ができないような人数になることが想定される。コミュニティスクール化して学校運営協議会を設置しますということで、町が何らかの形で高校にかかわっていく、方向性をもった高等学校の維持、小中高の一貫教育。北海道科学大学が生涯学習で来てくれ、連携も考えられ、高校統合を生かすような施策を打ち出してほしいと思う。

(事務局)

- 現在決まっていることが、31年4月に江陵と幕別高校を統合した高校が江陵高校の校舎を使って開校するという、もう1点全日制の普通科で間口は3学級といったところまでが今決定しているところ。

子供たちの選択をせばめないように、しっかりとした高等学校を町内に残していただきたいと話を続けてきた。私どもとしては、単位制の導入ができないだろうかということをお求めている。なぜ、単位制か、やはり子どもたちが全日制普通科という中で、色々な興味関心が選択できるようなコースを設定できないか協議しているところである。幕別高校がだめだというわけではなく、その幕別高校が今なぜこうなったかを踏まえて、江陵高校が培ってきた歴史をいかに継承して新たな幕別の高校を作っていくといったところで盛んに議論をしているところです。ただ、北海道教育委員会が設置主体であり、町が直接そこに与ることがなかなかできない状況になるが、地域の要望に添った形で、現幕別高校と江陵高校と町教委と道教委の4者で盛んにどういった高校づくりをしたら良いか、その中で学科の内容も含めて議論されている。

現幕別高校の反省を踏まえ、地域と高校との密接な連携、つながりが欠けていたのではない

かといった感じを受けている。新たな学校については、地域と高校と一緒に学校づくりを進めていくと言うような形にしていきたいということから、道教委に単位制導入と高校版のコミュニティスクールの導入ができないか道教委にお願いしているところである。ただ、道立高校でもまだ3校と少ない。一番有名なところで別海高校があるかと思うが、高校版のコミュニティスクールを導入していただき、地域と共に学校づくりをしていきたいと町として強く申し入れをしている所である。

また、高大連携の部分については北海道科学大学とは、包括連携協定を結んでいるということがあり、すぐということにはならないが、視野に入れていかなければ、ならないと考えている。例えば新幕別高校ができたときには、北海道科学大学の推薦枠をいただくといったことは、取り組んでいける部分と感じている。

(帰山部会長)

- 意味は、今事務局がいったことに含まれるが、具体的な表現、町民の方が安心するような内容を書いていただきたい。

(岩谷委員)

- 高校がなくなるのではないかという不安を解消する内容を書いていただければ良い。

(事務局)

- コミュニティスクールや地域と学校とのつながりと言う面についてはどういった表現がいいか整理させていただきたい。福祉と言う部分については、単位制でコースをどうするかといったところで、検討されているところである。福祉課と言うのはできないが、江陵高校が培ってきた歴史があり、それらをいかに新たな高校に引き継いでいけるか議論されているところで、理解いただきたい。ただ、基本計画の中での記載は難しいと思うので、地域との連携といった面で、どう表現できるかということ整理させていただきたい。

(高道委員)

- 福祉に特化した高校はできるものなのか。魅力あるのは江陵高校の福祉科だと思うが、幕別町として道もしくは国に対して言えないのか。そうすると福祉の勉強を高校からしたいという子どもたちが全道、全国から集まるのではないか。

(大谷委員)

- 介護施設では、江陵高校の生徒は即戦力になっているという話は聞く。特老にアルバイトなど働きに行かれて体験していると聞くので幕別町の良いとこでないかと思う。

(高道委員)

- 地元は大谷短大もあり、良い福祉の芽が出てきたものをもうちょっと咲かせてあげたらいいと思う。

(宮本委員)

- 福祉学校はものすごくお金がかかり、道はそういった学校をなくしたいと考えていると聞く。その部分を町で補えるような何かがあればいいと思う。

(事務局)

江陵高校としてはこれまでの歴史を引き続き新しい高校に繋げていただきたいというお話を伺いながら、道教委と協議をしてきた。福祉の話に関しても、道教委とも相当な時間議論してきた。道教委としてはできないというのが結論です。一つは今道内に福祉科高校は一つしかない。今、江陵高校でやっている介護の免許を取るためには、専門の教員を3人配置しなければならない。また、福祉の専門教員というものは、教科免許が無い。家庭科の免許が福祉の免許に代わるもので、その家庭科の免許の所持者はいるが、その方が福祉に精通しているかというところではなく、また、道教委の場合は異動があり、異動先がなくなってしまう。一つは、介護福祉士を高校では取ることが難しくなる法改正が進んでいる。福祉科高校に行っても免許が取れない形になると、何のための学科なのかという話になってくる。当初

道教委にぶつけた部分で言うと保護者の意向が第一で、保護者の意向の一番高かったのが大学進学につながる学力を付けられる学校を作ってほしいということ。そういう面から道教委に一番初めに要望したのは、子どもたちの進学要望に答えられるような教育環境をつくっていただきたい、さらに福祉の部分はどうにか継続できないかということ。福祉では難しいが、保健も含めた福祉医療という面で、北海道科学大学と包括連携協定を結んでいることもあり、例えば医療工学だとか、医療技師や検査技師など育成するような高校ができないか。また、本町の特色であるスポーツアスリートが出たことでのスポーツ医療や怪我をしない身体づくりなどスポーツコーチングといったコースを作れないか。一番初めに道教委に要望した内容は以上のようなこと。ただ、進学・福祉医療・スポーツ、高校では完結できないというのも私どもも分かっており、大学・短大・専門学校に繋げる高校を幕別町に作れないか、そこで完結するのではなく、基礎力を培って次の段階で専門的な知識を身に付けていけるような人材育成を図れる学校ができないかといった議論しているところである。

(帰山部会長)

○ ここには現れないことが、お話があった。ただ、幕別町にできる高校というといろんな意味でかわれる高校を目指して、可能性があると感じられる文言があればと思っています。

(清弘委員)

○ 次の学習指導要領でもキーワードは「社会に開かれた教育課程」「より良い学校教育を通して、より良い社会を作る」という目標をどれだけ地域と共有するかと言うところに絞られている。町の計画なので「支援を行う」という表現になるのか、「連携をする」という表現になるのかというところ。何か支援するというよりは、地域も学校がうまくいかなかったら、地域がつぶれるぐらいの感覚で学校教育を通して地域も、社会も良くなるという目標を共有して、現状と課題のところあたりに「五分五分」の思いで、子どもを育てることが出ている方がよい。

幕別高校と中札内高等養護学校幕別分校は、特別支援学校と普通高校が同居している全国まれに見る状況で、インクルーシブ教育を宣伝してやってきている。それが無くなる可能性が大である。義務教育課程との連携を図るとあるが、高校同士の連携も町にとってもプラスなのではと思う。新設校が離れて分校が残ったとしても札内にある新幕別高校と分校はインクルーシブ教育を行っていくなどがある方がよいのではないか。

(事務局)

○ 幕別高校と中札内高等養護学校幕別分校は、全道で一番はじめに特別支援学校と普通高校の同一校舎での教育を行っており、一定の評価をされていることは存じている。高校間連携を町の総合計画の中で書けるかという、なかなか難しい。特別支援学校の教育活動について地域関係団体が一体となり支援を行いますという中で、実際に地域協力会を作っている、そういう部分に含んではいらるが、どういった表現ができるか持ち帰らせていただく。

(国安委員)

○ 幕別の教育の日の部分で、「子どもを真ん中に置いた教育」というのが、なんとなく上から目線で子どもを置くというように取られかねない、適切でないように感じてしまう。「幕別教育の日に地域住民と連携協力を深め地域に開かれた学校づくりを推進します」というような表現ではどうかと思います。

(事務局)

○ 子どもを真ん中に置いた教育を推進しますというのは幕別教育の日の概念がそういう模式になっており、今ご指摘のあった見方もあると感じましたが、どういう表現がいいのか、教育委員会と相談させていただく。

(国安委員)

○ 2(8)に「教職員の研修を促進し」と、1(4)には、「教職員の研修活動を促進し」とある。

後者にだけ活動とあるが、何を表しているのか。

(事務局)

- 持ち帰り整理する。

(高道委員)

教育施設整備のところで、施設規模の適正化・適正配置を検討しとある。学校施設の計画的な整備・廃止をしますということかと思うが、札内を例に出すと極端に札内南小が多くて、北小、白人小が少ない状況。どういった方向性で盛り込んでいくのか聞きたい。北小、白人小が無くなるのではないかと危惧する。そういったことを煮詰めた計画は入れられないものかと、心配な面が含まれている感じを受ける。

(事務局)

- 大変難しくかつデリケートな問題で、これ以上の書き方がなかなか難しいと言うのが現状。何処の学校を縮小するとは言えない。今の例は札内地区の学校だが、郡部の学校もあって、小さい学校では11人の学校がある。学校は地域の財産だという考えがあり、地域の人材を育成する核になるものであるということから、統廃合だとかそういった部分は、なかなか踏み込めない問題である。町教委・幕別町では、これまで統廃合も行ってきた。しかし、保護者・PTAや地域の住民側から学校を考えたときに、どうあるべきかいったところで今まで統廃合が進んできた。一方では行政側では適正配置といったことは、まったく議論しないかという訳ではなく、対応できる準備もしていかなければならないといったところで、この表現になっているということで、ご理解いただきたい。

(国安委員)

- 小中一貫教育について書かれているが、小中連携についても触れて、選択肢として入れておいてはどうか。

(事務局)

- 小中連携については、今でも実施されている。今後10年間見据えたときには、それをステップアップして、9年間を見通し教育をしていきたいという意味で小中一貫教育と書いている。教育委員会に確認はさせていただくが、今進んでいる方向性は、小中連携ではなく小中一貫だということでご理解いただきたい。

#### 【第4章第3節 青少年の健全育成の推進】(P32)

(国安委員)

- 「自然体験やボランティア活動を通じ豊かな人間性を育てます」とあるが、第5期では「通じ」というところが「体験する機会の充実を図り」という文章であった。機会を作ってくれないということなのかと感じた。

(事務局)

- 自然体験やボランティア活動の大切さということは同じことである。どういう表現にしたらいいか持ち帰らせていただく。

#### 【第4章第4節 芸術・文化活動の振興】(P33)

(国安委員)

- 「地元の芸術家や文化を愛する人達と」あるが、地元と言うのは地元出身ということも含まれるのか。スポーツでは地元出身のアスリートという表現で、文化の部分は住んでいる人達だけを指しているように感じる。

(事務局)

- 地元の人でも地元出身の人とも言ふ両方の意味だと思うが、表現は持ち帰り検討する。

(国安委員)

- 幕別町はスポーツの方は、いろいろな事業があるが、地元出身の文化人は、取り上げることがほぼないと感じていた。何か企画できればいいと思う。

#### 【第4章第5節 歴史的文化の保存・伝承】(P34)

(岩谷委員)

- 学芸員の配置、人材活用は、これから先必要になってくるのではないと思うが、今は設置義務が無いので学芸員がいない。専門的にやられる方がいて初めて、貴重な資料の整理や文化財の掘り起こしなどが進んでいくのではないかと、ボランティア任せにしているのかと思う。

(事務局)

- ふるさと館・蝦夷文化考古館・忠類のナウマン象記念館という三つの歴史・保存・伝承の施設があるが、学芸員配置の必須施設ではない。今後、三施設の在り方、学芸員の在り方というのも含めて、どうすべきか検討している。今後10年の中にはあることだとは認識するが、ただ、総合計画の中に学芸員を配置するといったことを書き込むのは難しい。「地域文化の保存と伝承に担う人材の育成を支援するとともに」という中に包含されていると考える。踏まえて表現については持ち帰りたい。

(岩谷委員)

- 「地域文化の保存と伝承を担う専門知識を有する人材」という表現でもいいかと思う。

(杉山委員)

- 一部の自治体で図書館を民間団体に委託して、利益を追求したあまりに歴史的文化物などは利益にならないと処分してしまい、困ったと聞いた。幕別町は図書館が充実しており、現在のカメレオンコードで歴史的な書物も管理できるような将来はなっていきたいと聞いている。活発に活動している中でもう少し強調はできないのか。

(事務局)

- 1節施策の方向性5の中で、図書館を表現しており、ここに詰め込まれているということで、理解いただきたい。

#### 【第4章第6節 健康づくりとスポーツ活動の振興】(P35)

(高道委員)

- 10ヵ年計画で進むと思うが、施設の在り方を町としてどういう考えでいるのか聞きたい。あくまでも建物があって活動ができると思う。

(事務局)

- 学校含めて50年代以降急激に町が大きくなってきて、急激に施設の整備を行ってきた。それらすべてが老朽化し、大規模改修を行う時代になっている。施設だけで建替えるのに89億円、営繕でも数十億円掛かるが、施設が多いため、いかに寿命化させるかということで、昨年、長寿命化計画を策定しており、今後はそれに基づく個別計画で、いつどういう時期に改修していくか、計画の中に盛り込まれていく。すべて更新していくことは、財政的に持たず、今までと同じように更新していくことは人口減少時代においては難しいため、いかに長寿命化を図るかということで今計画を組んでいるところであり、ご理解いただければと思う。

(高道委員)

- 札内スポーツセンター・農業者トレーニングセンターと施設が二つあって、二つとも施設としてはどっちつかず。今後、長期計画でお金も絡む問題なので難しいが、どっちつかずの建物を各地区に建てるのではなく、もうちょっと充実した建物を考えながら建てたらどうかと思う。

(事務局)

- 忠類村と合併する前でいうと、幕別町は二極化していて、今、幕別地区は人口が減っているが、過去は札内地区と同じぐらいの人口があった地区である。行政効率からすると確かに一つあればいい。しかし、そこに暮す住民の方がいて健康を管理する中で、スポーツ施設はほしい、それぞれの地区が同じく発展していくということが理想のまちづくりという面で考えるとある程度の施設整備というものは、それぞれの地区においては必要であったと考える。人口減少社会において、例えば新たな建物を建てるといった時には、議論はされると思う。また、中途半端な施設という部分については、幕別においては、一流のプロスポーツの方を呼ぶ、世界大会を開くとか、そういう概念で作っていない。あくまでも健康増進施設としてスポーツに親しみ、そこで健康維持を図っていただく施設であり、この施設で十分でないかと考えている。

(大谷委員)

- パークゴルフの振興とあり、それはそれでよいが、町民のためのパークゴルフであるかと思う。しかし、町民がコースに行っても、指導して下さる方がいらっしやらない。初心者には初めて行ってもわからない。指導員の方が沢山いらっしやるので、本町ならクマゲラハウスに何時から何時までそういう人が居るなど、配慮があると入れてもらえればいいと思う。

(事務局)

- 教育委員会としては、町内のパークゴルフ振興はある程度の段階を終えたというところ。これからはまだ国内でパークゴルフ場の無いところもあり、最近では海外の旅行者が、パークゴルフを楽しみたいという声もある。また、観光の北海道と言うことで相当の外国人が今来ている中で、インバウンド対策という面でパークゴルフを外国人に対する指導や案内といったことをどうするのか盛んに議論されていると聞いている。確かに本町に住んでいて、パークゴルフのルールをわからない方もいると思う。クマゲラハウスには、オープンしている間に二人ほど人が居て、指導員の資格を持っている。その方が直接コースまで行って指導してくれないが、わからないことがあれば、そこで聞ける体制になっている。指導ということまでは書き込まれないが「日本パークゴルフ協会や様々な分野と連携しながら、一層の振興を図ります」という部分で、全てが入っているということでご理解いただきたい。

(帰山部会長)

- 大谷委員さんの言われた普段の取組だとか、教育委員会に伝えてもらい即できるところから始めてもらうということで、内容としては「一層の振興に」の部分に含まれるということでご理解いただければと思います。

(杉山委員)

- パークゴルフも大きい大会があるが、終わった後にしか分からない気がする。今週末の日本PG協会の大会は台風の被害で冠水したので一箇所が糠内に会場が変更になったというニュースで知ったこともある。

(事務局)

- どうしても終わった後に写真も含め記事が出るので目にする機会が増えるという部分があると思う。PG大会については、日本パークゴルフ協会や町のホームページ、広報誌等で募集はしており、なかなか目に触れないという部分は、ご意見としていただき、もっと周知できるようなことは考えて行く。決して周知していないわけではないのでご理解いただきたい。

(帰山部会長)

- 以上をもって、第二部会においては第三章及び第四章及び第五章第一節まで今日ですべて終了した。三回にわたっての部会での審議お疲れ様でした。第三回幕別町総合計画審議会第二部会を終了します。